



和土小だより



児童数	男子	98名
	女子	75名
	総計	173名

発行責任者 校長 辻 美由紀



さいたま市 20周年と和土小学校 148周年

校長 辻 美由紀



美しい新緑に囲まれた校庭に、子ども達の声が響いています。4月20日から、本市は埼玉県の「まん延防止等重点措置」対象地区となっています。感染症の拡大防止対策に留意しながらですが、教育活動を進めることができていることは、有難いことだと思っています。ご理解、ご支援をいただいております保護者、地域の皆様に改めて、感謝を申し上げます。

さて、さいたま市市制20周年となる今年、5月1日が「さいたま市民の日」となりました。さいたま市制が始まった2001年（平成13年）5月1日に由来するものです。郷土である本市の歴史や文化に親しみ、市民としての一体感とまちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力ある本市を将来にわたって創っていくことを期する日として制定されました。私達の和土小学校が、「さいたま市立」となったのは、4年後、2005年（平成17年）4月に岩槻市が合併し、さいたま市となった時です。「さいたま市立和土小学校」としては、間もなく20周年というところでしょうか。

しかしながら、明治6年開校の本校は、長い歴史をもつ伝統校です。5月29日に開校記念日を迎えることから、少し本校の歴史を見てみましょう。下の写真をご覧ください。校長室に飾ってある写真の1枚です。昭和7年4月。瓦屋根の校舎の前に大勢の方が並んでいます。「入学記念」とあることから、新入生とその



昭和7年4月 校舎の前で入学記念

ご家族の方でしょう。皆さん着物を着ていらっしゃる。現在この校舎はありませんが、校庭の鉄棒が並んでいるあたりに在ったのではないのでしょうか。写真では、はっきり確認できませんが、玄関と思われる入口の上に大きな鬼瓦が載っています。「和土学校」と旧字体で縦に文字が刻まれた鬼瓦は、現在、職員玄関を入ったところに飾ってあります。毎年、3年生の子ども達が、和土小学校の歴史などを調べて、校舎内を探検しているときに、これを発見しています。校長室にある写真を「これは、昔の学校の校舎だったみたいだね。今と違って、瓦の屋根だね。」と説明し、「この上に鬼瓦があるでしょう。実は、学校に残っています。」と投げかけます。子ども達は、驚くのですが、玄関でこの屋根瓦を確認すると、再度、

写真と見比べ、学校が昔から長く続いていることを実感しているようです。記録によると、児童数は、1979年（昭和54年）が最大で、1002名とあります。各学年4~5学級だったようです。現在の全校の児童数は173名ですから、この頃の一学年の児童数くらいですね。保護者の皆様の中には、この頃の和土小に通っていた方もいらっしゃるのでは。何かの機会に、子ども達に、その頃の学校での思い出などをお聞かせ願えれば、と考えています。和土小学校は、今年で148年目を迎えます。

今年は、開校記念日の5月29日に、春季大運動会を計画しております。例年のように、保護者、地域の皆さんと集まって…は難しそうですが、校庭での子ども達の頑張りを見ていただきながら、和土小の歴史にも思いを巡らせていただければ幸いです。保護者の皆様、地域の皆様も、体調にはお気を付けいただき、晴れやかに過ごしていただけるよう願っております。

未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

○やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子

やさしさいっぱい 力いっぱい やる気いっぱい

